

## アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	余市町アイヌ施策推進事業
2 事業の種類	(文化振興事業) (地域・産業振興事業) (コミュニティ活動支援事業)
3 事業の目的	地域に存するアイヌの歴史や文化等を保存・情報発信し、理解促進と地域の産業振興を活発化させ、次世代への継承や魅力ある地域社会の形成を目的とする。
4 事業の概要	<p>(2) 地域・産業振興事業</p> <p>① 定額タクシーによるアイヌ関連施設を巡る観光ルート周遊事業</p> <p>○ 事業実施主体 北海道余市町</p> <p>○ 事業の実施場所 余市町内</p> <p>○ 事業の実施期間 交付決定の日～令和4年3月</p> <p>○ 事業の内容と考え方 本町はニッカウキスキー余市蒸溜所やワイナリーを観光人気スポットとして年間100万人超の観光入込があり、北海道においては令和2年7月に白老町にウポポイがオープンしたことで道外からの観光客やコロナ終息後には国外からのアイヌ文化に興味のある観光客の増加が見込まれる。本町が有するアイヌ文化関連施設は全国的にも貴重な資料等を有しているが、これらの施設と観光人気スポットを巡る観光コースは距離の延長が長く、既存の路線バス等による乗り継ぎも不便であることから、観光客にとって利用し難いコースである。これについて、定額タクシーでの観光商品を開発し、自治体からの補助により公共交通等を利用する場合よりも低価格で利用できる商品とすることで、アイヌ文化に興味のある潜在的な観光客へのインセンティブを働かせる。 今年度は、タクシーに貼るステッカーの作成とアイヌ文化関連施設と観光スポットを巡る定額タクシーの運行を行う。</p> <p>② アイヌ関連観光施設サイン整備事業</p> <p>○ 事業実施主体 北海道余市町</p> <p>○ 事業の実施場所 余市町内各所</p> <p>○ 事業の実施期間 交付決定の日～令和4年3月</p> <p>○ 事業の内容と考え方 本町は旧下ヨイチ運上家やよいち水産博物館といったアイヌ関連の施設を有しているが、両施設は町民の生活拠点や観光・経済拠点が隣接し</p>

	<p>ておらず、町民や観光客を誘導することが現状困難となっている。本事業は、町内各所に両施設への案内看板を設置することにより両施設が持つアイヌ文化の理解促進や普及啓発の機能を最大限活用するものである。今年度は JR 余市駅から施設周辺までの案内看板を設置する。</p> <p>③アイヌ文化財保存・普及啓発事業</p> <p>○事業の実施主体 北海道余市町</p> <p>○事業の実施場所 余市町入舟町 よいち水産博物館</p> <p>○事業の実施期間 交付決定の日～令和 4 年 3 月</p> <p>○事業の内容と考え方 本町ではアイヌ民族の伝承資料や町内で発掘されたアイヌ文化に関わる貴重な文化財を多数有しているが、これらを専用に展示する施設がなく、本町の文化財を総合的に展示する施設であるよいち水産博物館で収蔵し、その一部を展示している。本町では、アイヌ文化に関わる文化財を可能な限り展示したいと考えているが、よいち水産博物館は建設から約50年が経過しており老朽化が進んでいることから、適切な環境下で展示することが困難な状況である。本事業はよいち水産博物館を一部改修・修繕し、貴重な文化財を適切に保存することで文化財としての価値を保ち、展示することで貴重なアイヌ文化を情報発信し、町民や観光客に対するアイヌ文化の理解促進や普及啓発といった文化財を所有する自治体としての役割を果たすものである。</p> <p>④アイヌの歴史や伝統の継承に関する理解を促進する事業</p> <p>○事業の実施主体 北海道余市町</p> <p>○事業の実施場所 余市町入舟町 旧下ヨイチ運上家</p> <p>○事業の実施期間 交付決定の日～令和 4 年 3 月</p> <p>○事業の内容と考え方 江戸時代、アイヌ民族との交易を松前藩士から請け負った商人が拠点とした施設が運上家であり、本町にある旧下ヨイチ運上家は現存する唯一の運上家であり、国指定重要文化財となっている。旧下ヨイチ運上家には文化価値の高いアイヌ風俗画や古文書等の資料が620点余り残されているが、適切な設備がないため展示されていない。本事業は旧下ヨイチ運上家に展示設備を整備し、建物とアイヌ関連資料を一体として展示することにより、町民や観光客がアイヌの歴史や伝統等の理解を深めるための支援とし、次世代へ継承していくことでアイヌの尊厳を守っていくものである。</p>
5 アイヌ施策推	4-3 観光の振興その他の産業の振興に資する事業

<p>進地域計画における記載</p>	<p>■定額タクシーによるアイヌ関連施設を巡る観光ルート周遊事業</p> <p>本町は、年間100万人超の観光入込があり、白老町にウポポイがオープンし道外や国外からのアイヌ文化に興味のある観光客が見込まれるこの機会に、よいち水産博物館と旧下ヨイチ運上家を定額タクシーの観光周遊ルートとして設定する。</p> <p>当地域は交通手段が脆弱で、両施設とも公共交通機関の利用に不便な場所にあるが、定額の料金を低く設定することにより観光タクシーの利用促進を図るとともに、アイヌ文化の理解促進や普及啓発を目指す。その際、タクシーの車両にアイヌ文様のステッカーを貼り、車内にはアイヌ文化のパンフレットを置くことにより、相乗効果を図る。アイヌ文様のデザインは町内の高校出身であるアイヌアーティストに依頼する。</p> <p>作成するアイヌ文様のデザインは、観光タクシーのステッカーに使用するほか、アイヌ関連施設、パンフレットなど幅広く活用することで、本町のアイヌ文化発信のシンボルとする。</p> <p>■アイヌ関連施設観光サイン整備事業</p> <p>本町は旧下ヨイチ運上家やよいち水産博物館といったアイヌ関連の施設を有しているが、両施設は観光ルートや町民の生活動線から離れた立地となっている。町民や観光客に対し施設の機能や存在を認知してもらうため、町内各所に案内看板等を設置し、両施設がもつアイヌ文化の理解促進や普及啓発の機能を最大限活用する。</p> <p>■アイヌ文化財保存・普及啓発事業</p> <p>本町で多数発掘されたアイヌ文化に関わる文化財について、保存場所も展示場所もなく、適切な保存環境の整っていないよいち水産博物館で保管することしかできなかったが、アイヌ文化という世界的に見ても貴重な文化財を適切に保存・展示するために、よいち水産博物館を一部改修・修繕し、保存に適した収蔵庫と展示スペースを確保する。適切に保存することで文化財の価値が保たれ、展示することで貴重なアイヌの文化を情報発信し、白老町にウポポイがオープンし道外や国外からの入込客が見込まれるタイミングで、普及啓発を図る。</p> <p>■アイヌの歴史や伝統の継承に関する理解を促進する事業</p> <p>江戸時代、アイヌ民族との交易を請け負った商人が拠点とした施設が運上家であり、本町にある旧下ヨイチ運上家が、現存する唯一の運上家である。旧下ヨイチ運上家には、文化価値の高いアイヌの風俗画や古文書が620点余り残されているが、これまでは適切な設備がないため展示されなかった経緯がある。運上家に展示できる設備を整備し、常設展示の機能を強化するだけでなく定期的な特別展などで展示機会を増やすことにより、アイヌの歴史や伝統等の理解を深めることを支援し、次世代へ継承していくことへと繋げていく。</p>
<p>6 事業の成果目標等</p>	
<p>(1) 成果目標の</p>	<p>(2) 地域・産業振興事業</p>

達成に向けた工程	<p>①定額タクシーによるアイヌ関連施設を巡る観光ルート周遊事業 定額タクシーのコースにアイヌ関連施設を入れることで観光客にアイヌ文化の理解促進や普及啓発が図られ、よいち水産博物館及び旧下ヨイチ運上家の来館者が増えると考えられる。</p> <p>②アイヌ関連施設観光サイン整備事業 町内にアイヌ関連施設の案内看板等を設置することにより観光客及び町民の理解促進や普及啓発が図られ、よいち水産博物館及び旧下ヨイチ運上家の来館者が増えると考えられる。</p> <p>③アイヌ文化財保存・普及啓発事業 アイヌの文化財を整備された展示場所に保存・展示することにより、文化財としての価値が保たれ、アイヌ文化の普及啓発が図られるとともに、アイヌの人々の尊厳を守ることにも繋がるため、よいち水産博物館の来館者が増えると考えられる。</p> <p>④アイヌの歴史や伝統の継承に関する理解を促進する事業 文化価値の高いアイヌの古文書等の展示機会を増やすことにより、アイヌの歴史や伝統等の理解を深める支援とし、次世代へ継承していくことでアイヌの人々の尊厳を守ることにも繋がるため、旧下ヨイチ運上家の来館者が増えると考えられる。</p>
(2) 成果目標、(中間)目標年度(成果目標に対する現状値、及び成果目標の達成見込みについて記載すること)	<p>よいち水産博物館の年間来館者数 令和3年度 3,330人 令和4年度 3,480人(中間目標) 令和5年度 3,550人 令和6年度 3,780人(最終目標)</p> <p>旧下ヨイチ運上家の年間来館者数 令和3年度 4,540人 令和4年度 4,740人(中間目標) 令和5年度 4,830人 令和6年度 5,140人(最終目標)</p> <p>成果目標は達成する見込み。</p>
(3) 成果目標の確認方法	各 KPI について、実数値を公表するとともに、事業を実施する部局以外の役場管理職員で構成する評価委員会により、達成状況を確認・検証し、事業の効果的な実施を目指す。
7 地域の概要	
(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題	本町では古代から近世にかけての遺跡として余市川河口右岸の大川遺跡、左岸では入舟遺跡や天内山遺跡などがあり、発掘調査によって8世紀の擦文時代頃からサケ・マス漁を主体としたアイヌ民族の集落が営まれ

	<p>ていたこと、中世においては本州からの陶磁器や金属製品が大量に出土することから交易が盛んであったことなどが推測される。</p> <p>また、本町にある旧下ヨイチ運上家は、アイヌ民族との取引を請け負った商人である林家が拠点とした施設で、現存する唯一の運上家という希少性の高いものであり、アイヌ絵や古文書等も多数残されている。また、余市町は北海道の西海岸で唯一といえるほど多くの民具資料が残されている貴重な地域でもある。</p> <p>しかし、今まではこれらの貴重な出土品や古文書等の文化財を保管しているのみであり、町民がアイヌ民族の文化に触れ合い理解する機会は少なかったと考えられる。</p> <p>今後ウポポイや本町の新道の駅が開業するこの機会に、アイヌ民族の貴重な文化財を適切に保存し展示できる施設を整備し、町民のみならず本町を訪れる人々に広くアイヌ文化の情報発信や普及啓発を行うことが必要と考えられる。</p> <p>また、その施設を巡る定額タクシーやコミュニティバスなどの交通機関を整備することで、アイヌ文化の振興及び観光や産業の振興に資することにより、アイヌの人々に対する理解を深めることに繋げ、次世代へと継承することでアイヌ民族の尊厳を守っていく社会を実現することが重要である。</p>
(2)施設等の管理運営体制	<p>よいち水産博物館及び旧下ヨイチ運上家は、余市町が管理運営している。</p>
(3)アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制	<p>公益財団法人アイヌ民族文化財団及び町内のアイヌ文化研究団体である余市郷土研究会と意見交換等を行う協力体制にある。</p>

8 収支予算

(1) 収入の部

(単位:円)

区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度予算額)	比較増減	
			増	減
国庫補助金	21,062,756	4,972,000	16,090,756	0
市町村負担額	5,265,690	1,243,000	4,022,690	0
計	26,328,446	6,215,000	20,113,446	0

(2) 支出の部

(単位:円)

経 費 区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度予算額)	比較増減	
			増	減
地域・産業振興事業	26,328,446	0	26,328,446	0
需用費	78,100	0	78,100	0
負担金補助及び交付金	90,000	0	90,000	0
工事請負費	26,160,346	0		
合 計		0	0	0
需用費	78,100	0	78,100	0
負担金補助及び交付金	90,000	0	90,000	0
工事請負費	26,160,346	0	26,160,346	0